

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0970101879		
法人名	社会福祉法人正恵会		
事業所名	グループホーム宝寿の里		
所在地	栃木県宇都宮市宝木本町1769-1 (電話) 028-666-1111		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年2月5日	評価確定日	平成22年3月16日

【情報提供票より】(平成22年1月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤8人(うち兼務2人), 常勤換算7人	
	8 人	常勤8人(うち兼務2人), 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,600 円	その他の経費(月額)	水道光熱費-25,000円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成22年1月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	68 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮第一病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、市の北西部に位置し、のどかな田園風景の中に、同法人の特別養護老人ホームに隣接して建っている。ホームでは理念にもある、「地域や自然とふれあいながら」の実践として、法人全体で開催する納涼祭には地域住民の参加が年々増え、入居者との交流も盛んになってきている。近隣の農家から声がかかり、芋掘りを体験することもでき、地域との交流も深まってきている。年々、入居者は重度化してきているが、「暮らしに喜びと自信を」という理念に添って、「外出週間」を設ける等、常に入居者の暮らしの質を高めるような支援を全職員が一丸となって取り組む姿が見られるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	取り組み事項の再確認を行い、介護支援計画の作成には全職員が積極的に関わったことからアセスメントが充実し、入居者の支援に活かされた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、ホーム長等が評価の意義や活用方法の説明を行い、ユニット毎に職員間で話合った事をシートに記入したものを、管理者がまとめあげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は入居者、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加により、2ヶ月に1度開催している。入居者や家族からはホームでの行事への要望、地域包括支援センターから地域の情報や提案等をしてもらっている。食事作りのボランティアの受け入れも検討する等、ホームの現状や課題、入居者の暮らしぶり等を伝えながら、活発な意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書にはホームの苦情相談窓口担当者として市の担当部署が明記されている。管理者及び職員は家族の来所時には会話する機会を大切にしており、出された意見や要望等は、全職員で共有しながら家族との信頼関係の構築に努めている。運営推進会議にも家族の参加を検討している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者が年々重度化してきてはいるが、両ユニットで10名が地域の長寿会に2ヶ月毎に参加している他、国本祭り、国本中学校の茶摘み、芋掘り等の地域行事にも参加している。また、同法人主催の納涼祭や文化祭にも参加しており、地域住民との交流も行われているが、ホームへ気軽に立ち寄ってもらう事については検討中である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと楽しく」「自由にありのままに」「一緒に過ごすケア」「暮らしに喜びと自信を」「地域や自然とふれあいながら」という理念を掲げ、家庭的な環境のもと、入居者の有する能力に応じ、自立した日常生活の支援を目標としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念、ホーム理念及び目標や運営方針を事務室に掲げており、朝礼時に全職員で唱和するなど、理念の共有と実践に取り組んでいる。	○	法人の運営方針に添って日々の支援を実践しているが、全職員が地域密着型サービスの意義を再確認し、理念の達成に向け、入居者個々の状態に添った支援を行っていき取り組みに今後も期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が年々重度化してきてはいるが、両ユニットで10名が地域の長寿会に2ヶ月毎に参加している他、国本祭り、国本中学校の茶摘み、芋掘り等の地域行事にも参加している。また、同法人主催の納涼祭や文化祭にも参加しており、地域住民との交流も行われているが、ホームへ気軽に立ち寄ってもらう事については検討中である。	○	季節の催し等の関わり方だけではなく、同法人やホームから地域へ認知症や介護等の情報発信や地域からのニーズを収集し、入居者の外出を支援してもらうボランティアを募る等、地域との関係がより充実したものになるよう、今後も働きかけていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組み事項の再確認を行い、介護支援計画の作成には全職員が積極的に関わったことからアセスメントが充実し、入居者の支援に活かされた。今回の自己評価は、ホーム長等が評価の意義や活用方法の説明を行い、ユニット毎に職員間で話合った事をシートに記入したものを、管理者がまとめあげている。		

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加により、2ヶ月に1度開催している。入居者や家族からはホームでの行事への要望、地域包括支援センターから地域の情報や提案等をしてもらっている。食事作りのボランティアの受け入れも検討する等、ホームの現状や課題、入居者の暮らしぶり等を伝えながら、活発な意見交換を行っている。	○	ホームの安全・安心等の観点から運営推進会議に今後、駐在所の警察官や消防団、民生委員等の参加を呼びかけ、運営推進会議がさらに充実したものとなることに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には、介護保険の更新手続きのために出向いているが、ホームの運営状況や課題等の実情を積極的に伝えるには至っていない。	○	同業者間の積極的な情報交換の場を発信できるよう、市担当職員と協働しながら取り組んでいくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、月一回広報誌「ほのぼの通信」を送付して、ホームの様子を伝えているが、入居者個々の状態に変化があった時には、担当職員が随時連絡をしている。金銭管理は、預かり金台帳を定期的に家族に確認してもらい、確認の日付とサインをもらっており、希望する家族には請求書の送付時に併せて送付している。	○	家族アンケートに預かり金の明細が分かりづらい、職員の異動の報告がないとの意見が記入されていることから、家族が知りたい事を考慮したうえで、個別報告を徹底する等、家族との信頼関係の構築に向けた取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にはホームの苦情相談窓口担当者と市の担当部署が明記されている。管理者及び職員は家族の来所時には会話する機会を大切にしており、出された意見や要望等は、全職員で共有しながら家族との信頼関係の構築に努めている。運営推進会議にも家族の参加を検討している。	○	サービスの質の確保・向上のため家族の率直な意見、苦情等を外部に安心して表せる機会を設けるためにも、重要事項説明書に国民健康保険団体連合会や運営適正化委員会等の外部の苦情受付機関を明記することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や離職が多い時期もあったが、現在は馴染みの職員による長期的な支援を行っており、異動は極力実施しないようにしている。異動や離職時には、職員間で入居者情報の引継ぎを行い、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。法人全体で産業医によるカウンセリングの制度もあり、職員からは重要性があるとの声が聞かれた。	○	離職や異動により職員が替わる場合には、入居者への影響を十分に配慮する他に、家族がホームに対して不安や不信感を持ちやすい部分であることから、家族へ報告や紹介等の配慮を検討していくことにも期待したい。

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修計画書に基づいて職員個々の立場、経験、習熟度に応じて、年間計画の中で研修を位置付けている。認知症介護実践者研修等の外部研修にも実務に支障をきたさない協力体制があり、「働きながらの学び」の機会が与えられていることから、法人として資格取得の支援制度も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入しており、他のホームへの見学や見学の受け入れも実施している。	○	職員からも同業者との勉強会やネットワークづくりについての希望があることから、他法人の同業事業所職員との交流や連携の必要性を運営者が認識し、市内グループホームの草分け的立場を活かし、それを具体化するための方針や姿勢に期待したい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みがあった場合、本人の安心と納得の確保のためにホームへの見学を勧めている他、家庭訪問等も行い、本人の要望や不安の把握に努め、家族とも相談しながら段階的な支援の工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員それぞれの持ち味を十分に発揮し、「認知症ケアの基本」を念頭に置きながら、日々の入居者の喜怒哀楽に関心を寄せ、入居者と共に日々の生活場面を作り上げている姿勢が見られる。		

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向の把握には、生活歴等を記した「生活シート」を活用したり、意向の表出が困難な入居者についても日々の小さなサインを見逃さず、家族等の協力を得ながら把握に努めている。新聞広告の中で「サーカス公演」を見つけ、提案した入居者の意向をふまえて見学に行く等、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの充実の為の家族や関係者との連携が図られており、介護計画作成には全職員が関わって、入居者個々のプラスアルファを見出しており、職員からの気づきを取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しはユニット毎に全職員で会議を実施し、基本的には半年に一回の見直しを行っている。本人および家族の要望や状態の変化に対して、必要な関係機関とも話し合いを行い、意見や助言を反映させながら臨機応変に介護計画を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。入居者が重度化していく状況での特養の紹介や申し込み等、柔軟な支援をしている。また、通院支援や訪問歯科、オムツ券の手続きなども行っている他、家族の状況や意向に変化がある場合には随時相談にのり、適切なアドバイスをしている。		

グループホーム宝寿の里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院やホームドクターの診察等、入居者一人ひとりの健康状態を把握しながら、本人及び家族が希望する医療が受診できる様に支援を行っている。職員間での入居者の受診結果に関する情報の共有は概ねできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきた入居者の家族には安心と納得を得られる様、きめ細かく状態の報告を行い、今後の方針についての協議をしている。今後もホームドクター等の指示を仰ぎながら対応方針の共有を図ることを視野に入れた姿勢が見受けられる。	○	医療連携体制加算を視野に入れ、重度化した場合の対応や終末期のあり方についての方針等を職員間で話し合う事や、研修の機会を設ける取り組みに期待したい。また、家族の交流会等でも、重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとしての方針を家族に示していく取り組みにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの誇りを尊重し、言葉かけや個人情報の取り扱いには十分に注意を払っている。居室の施錠も自由になっており、入居者個々のプライバシーの確保は守られている。個人記録は事務室で適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムや本人がしたいと思ってる事を大切にしており、天気の良い日に入居者より「今日はドライブ日和だね」との言葉が聞かれた時等は、手作り弁当持参で近隣の公園まで出掛けたり、入居者と職員が夕食を兼ねて蕎麦屋で晩酌をするなど、日々の暮らしがその人らしいものとなるよう支援している。		

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と食材の買出しに出かけ、その日にメニューを決める事も少なくない。入居者個々の力を活かしながら、調理の手伝いや食器拭き等を職員の見守りのもとで行っている。職員は入居者から昔ながらの料理を教わったり、趣向を変えて懐石風にしたり、外食の機会を持つなど職員と共に「食」を通じた様々な取り組みを実施している。	○	ヘルスメイトという高齢者の勉強をして、食に関わるボランティアの受け入れを検討しているとのことだが、年間を通して食の行事が入居者にとって楽しみなものとなるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は概ね午後2時から夕方の時間帯で入浴しているが、入居者個人の生活習慣やその時の希望で夕食後から午後8時頃までの時間帯でも対応している。入浴の拒否傾向がある入居者には無理強いせず、雰囲気作りをしてくつろいだ気分で入浴できるように配慮しながら個別にあった入浴の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者をグループとしてひとまとめにせず、一人ひとりに合わせた個別の対応をして楽しみごとを見い出せるよう職員は努力している。入居者の動きに気を配りながら、散歩など柔軟に支援している。訪問時には入居者の誕生祝いを職員が盛り上げ、他の入居者と共に楽しむ姿も見られた。	○	入居者の日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、「傾聴ボランティア」などの受け入れも検討していくことに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月、「外出週間」を設けており、入居者の希望や運営推進会議等での情報から、宇都宮動物園、ろまんちっく村、県立博物館、日光方面へのドライブ等に積極的に外出をしている。重度化してきた入居者についても、敷地内にある同法人の納涼祭への参加や、地域の畑での芋掘り等、できるかぎり戸外に出る機会を作っている。	○	入居者の重度化に伴い外出が困難になりがちだが、家族からの協力や外出支援のボランティアを募る等、今後も外出支援の活用や工夫に期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、センサーチャイムが設置されているが、基本的に施錠されている。	○	施錠することによる家族や地域住民等からの閉鎖的な印象や入居者が外に出なくなる場面や理由、行き先等の把握に努める等、職員の見守りのもとで施錠しない支援へ向けた取り組み期待したい。

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中や夜間を想定し、同法人の併設事業所やホーム独自の避難訓練を消防署の協力により年2回実施している。法人全体で緊急時対策のマニュアルを作成しているが、地域への協力依頼は法人での対応となっている。	○	災害発生時に同法人の併設事業所からの協力体制はあるものの、夜間時等における職員だけの誘導の限界を全職員が確認し、地域からの協力を得た避難訓練を実施できるよう、今後の関係構築に向けた取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士からの栄養バランス等のアドバイスを参考にしながら、嚥下障害がある入居者や病人食の提供など状態に合わせて個別支援する工夫をしている。水分等も甘みを加えるなどの工夫をして一日1500mlは摂取できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には毎月季節に合わせた絵を飾ったり、花を生けたり和やかな雰囲気作りをしている。また、入居者の作ったジグソーパズルの壁掛けや、行事等で撮られた入居者の写真等も共用の空間に華を添えている。明りとり天窓が設けられ、採光も適切であり、不快な音や臭い、空気の日どみなどもなく暮らしの場が整えられている。	○	玄関ホール、廊下、トイレ等に清掃が行き届いていない部分が見受けられることから、できそうな入居者にも声かけをしながら、日常的に共用空間の清潔の保持に努める取り組みに期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風タイプの「宝ユニット」、和風タイプの「寿ユニット」とそれぞれの持ち味を活かした居室づくりをしている。居室にはベッド、たんす、机、椅子等が設置されているが、入居者思いの品々が持ち込めるだけの十分なスペースが確保されており、使い慣れた品々が持込まれている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。